

産 婦 人 科 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 渡 辺 員 支

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・ 学生は、この授業を履修することにより産科・婦人科学における臨床上的の問題点を基礎的に理解し、再度臨床にフィードバックできる能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ・ 知識: 学生は、授業を通して、産婦人科疾患の予防や治療法のなかでも、胎児脳障害の機序や妊娠高血圧症候群の予防、より副作用のすくないホルモン補充療法など、現在の解決が不十分な問題点を指摘できる。
- ・ 態度: 学生は、臨床での検討に参加でき、問題点を列挙・提示できる。また臨床研究の場合、患者の協力やコメディカルの協力にも配慮できる。
- ・ 技能: 学生は、サンプルの収集から管理・測定・統計計算まで出来る。また血管拡張反応や自律神経測定などの生理学的検査や、EIA法などの測定などは自身でできるようにする。

3 授業内容

【 講 義 】	産科婦人科領域における各種疾患群の病態・症候・病態生理・診断・治療についての講義を行う。特に最近の知見の進歩・問題点について講義する。
【 演 習 】	産科婦人科領域における欧文論文の抄読・症例の検討・特に臨床診断学を中心に実習する。
【 実験研究 】	1, 周産期医学(妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態や発症機序・胎児脳障害の発症機序や予防) 2, 腫瘍学(婦人科悪性腫瘍の転移機序, 婦人科悪性腫瘍の適切な化学療法を選択, 婦人科悪性腫瘍に対する副作用) 3, 女性医学・生殖内分泌学(閉経後女性のホルモン動態と生活習慣病発症機序や予防・治療薬の選択, 子宮内膜症患者の心血管系疾患リスクと治療薬の選択, 骨粗鬆症と栄養補助食品) 4, 感染症(不妊症患者とクラミジア感染症)

4 成績評価の方法・基準

- ・ 与えられたテーマの背景について十分熟知し、研究の基本的技能を習得した上で研究が進行しているか否か、さらには研究成果をいかに考察し、論文に展開できるかを評価する。数ヶ月に一度、症例や検体数の集積状況を提出させて確認し、到達目標に対しどの程度達成されたかを評価する。
- ・ 評価方法については、研究グループでの検討会や研究会などへのプレゼンを含め、定期的に成果をまとめる機会を設ける。

5 教科書・参考図書

Williams Obstetrics, 24th ed.

F.G.Cunningham, K.J.Leveno, S.L.Bloom, et al. MCGRAW -HILL COMPANIES, 2014

Te Linde's Operative Gynecology, 11th ed.

H.W.Jones,III & J.A.Rock (eds.) LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS, 2015

また、必要に応じてプリント配付や、適宜最新の文献を指示する。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

1週間におよそ7時間程度の予習, 復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ① 当該授業科目での日々の研究活動を通じて、専門的職業人に必要な企画力とプレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的な役割を履行できる。
- ② 当該授業科目での課程修了に関して、産婦人科に関する論文作成を行い、研究分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。
- ③ 当該授業科目の学位取得後は、産婦人科分野の研究に精通することのみならず、医学に対する探究心と、医師としての謙虚さをかねそなえた研究者となり、ひいては国際的視野に立った研究を遂行できるよう尽力する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- ・レポートは、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求める。
- ・講義, 実習中に疑問点がある場合は、オフィスアワーなどを用い適宜質問に応じ、解説を行う。
- ・レポートの内容について、個別に指導する。

9 履修上の留意点

授業を履修するにあたっては、個人の能力に応じて履修速度に留意する。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	渡辺員支	水	13:30~15:00	D棟4階医局	内線 22153